

学芸員資格の取得について

はなみさ だいち
英 大智 (農林水産省勤務)

私は、文学部卒業後、最初の2年間は水産庁にて、漁港の管理業務を担当していましたが、現在は農林水産省大臣官房にて、国会議員等から受けたレク要求の対応調整及び国会答弁セット等の国会対応業務に日々従事しています。

学生時代は考古学研究室に所属しており、研究及び発掘業務に携わる中で、学芸員の仕事も面白そうだという漠然とした理由で学芸員課程を受講することにしました。

受講する中で、フィールドワーク等様々な経験を積むことができ、学びを深めることができました。

3回生からは、博物館実習と並行して公務員講座を受講していました。ほぼ毎日公務員講座があり、夏季休暇中にはそれに加えて野外実習及び研究室での発掘作業に主要メンバーとして10日ほど参加するなど大変忙しかったのですが、時期的に公務員試験の勉強自体がそこまで本格化していないのと、周りの人々と助け合うことで乗り切ることが可能となるのではないかと思います。特に岡山県立博物館での実習は所蔵品に触れるなど普段では決して体験できないようなことを数多く体験させていただき、官庁訪問時にその内容を話すことで面接官の興味を引くことができました。

現在、仕事上では、博物館との関わりはないものの、首都圏には博物館が数多く存在するため、休日に巡っているのですが、展示品を見ることはもちろん、館ごとの展示手法及び展示機材等を比較することは、資格取得者ならではの楽しみではないかと思います。

国際博物館会議京都大会 (ICOM KYOTO 2019)



プレナリーセッションの会場 (国立京都国際会館)

2019年9月1～7日にかけて、日本初開催のICOM (International Council of Museums: 国際博物館会議) 大会が京都で開催されました。大会テーマは「文化をつなぐミュージアム ―伝統を未来へ― Museums as Cultural Hubs: The Future of Tradition」です。120の国と地域から、4500名を超える参加者となり、盛会のうちに終了しました。プレナリーセッションにおいて、本学でも力を入れる国連の「持続可能な開発目標」(SDGs)にかかわる課題に対し、ミュージアムがどのような役割を果たしうるか、活発な意見表明がなされたことが印象的でした。

私は2日間の参加ではありましたが、「考古学・歴史の博物館・コレクション国際委員会」(ICMAH)のセッションにてHow can museum studies meet the practice of archaeological institutions in Japan?と題する発表をして、意見交換を行い、関係者との交流を深めました。

(光本)

13

Sep. 2019

学芸員課程
NewsletterNewsletter from Course
for Prospective Museum
Workers, Faculty of Letters,
Okayama University

編集・発行: 岡山大学文学部学芸員課程 (編集 光本 順)

発行日: 2019年9月30日

文学部学芸員課程Web Site
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/pmww>

contents

特集 学芸員資格の意義 ―卒業生の経験から学ぶ―	光本 順 …… 1
インタビュー企画 先輩学芸員にきこう! 今治市教育委員会文化振興課文化財係 学芸員(考古学) 加治木 智也さん …… 2~3	
卒業生コラム 学芸員資格の取得について 英 大智 …… 4	
NEWS & TOPICS 国際博物館会議京都大会 (ICOM KYOTO 2019)	光本 順 …… 4

特集

学芸員資格の意義
―卒業生の経験から学ぶ―

学芸員資格の取得には、個々の人生の中ではたしてどのような意義があるのでしょうか。今回は、ともに同期で本学文学部考古学研究室と学芸員課程で学んだ二人の卒業生の経験を掲載します。

一人目は、本学文学部を卒業後、2019年3月に大学院社会文化科学研究科博士前期課程を修了し、4月から考古学の学芸員として勤務する加治木智也さんです。加治木さんには、インタビュー企画「先輩学芸員にきこう!」において、「博物館概論」受講生(文学部、理学部ほか約80名)から寄せられた質問に答えていただきました。7回目となる今回は、2013年度から新学芸員課程の講義を開始して以降、新課程を経た卒業生へのはじめてのインタビュー記事です。また、考古学における学芸員とは、いわゆる埋蔵文化財系の専門職員として自治体の教育委員会等に採用される場合が多く、文化財の調査・研究や教育・普及にあたります。まだ採用一年目ということで、さまざまな仕事を吸収しつつある様子が、質問を寄せた学生にも興味深く伝わったようです。

二人目の英大智さんは、加治木さんと同期で文学部に入学後、考古学研究室に所属した卒業生です。学芸員課程科目もすべて単位を修得しましたが、学部卒業後の進路としては国家公務員となる道を選択しました。現在は農林水産省で勤務する傍ら、博物館や遺跡散策を楽しんでいるようです。文学部生の話きくと、3年次に大学生協主催の「公務員講座」を受講する学生がそれなりに多い印象もあります。博物館実習生にも、公務員講座と学芸員課程をうまく両立している学生が毎年一定数いますが、英さんもそうした学生のひとりでした。

学芸員資格は取得したけれども、専門職の道を選ぶ人自体が少ないのは、全国的にもいえることです。実際に学芸員として活躍する方とともに、ただちに専門職には就かなかつたけれども博物館を楽しみ、支える卒業生の声にもスポットをあてることで、大学教育における学芸員養成の意義の一端を考える手がかりが得られるのではないかと期待しています。

(文学部准教授 光本 順)



加治木智也さんの仕事風景 (遺跡の調査)

博物館概論受講生による卒業生へのインタビュー

先輩学芸員にきこう！

今治市教育委員会文化振興課文化財係

学芸員(考古学)

かじきともや

加治木 智也さん

プロフィール

1995年 兵庫県伊丹市生まれ
 2017年 岡山大学文学部人文学科卒業
 2019年 岡山大学大学院社会文化科学研究科修了
 専門分野は考古学

学芸員になるには

学芸員になるまでの推移について教えてください。

学部・大学院で考古学を学び、学芸員になりました。

なぜ現在の職場で働こうと思ったのですか。

学芸員の募集が出て、ご縁があったからです。

学芸員になろうと思ったきっかけは何ですか。その進路選択に不安などはありましたか。

学部3年生の時に考古学の魅力に気づき、大学で学んでいることを仕事にしたいと思ったからです。不安はありませんでした。

いつ大学院進学を決めましたか。また大学院を修了したことで、現在の職に役立っていることは何ですか。

学部3年の時に決めました。今治市は修士論文でも対象とした地域なので、他の研究者との話が広がりやすく、具体的なアドバイスをもらえたりします。

学芸員になるために学生時代にしておくべき勉強や活動について教えてください。また、資料に関すること以外で勉強しておいた方がよいと感じる内容はありますか。

卒業論文でも修士論文でも構いませんが、何か問題意識をもって勉強し、自分の専門性を磨くとよいと思います。

学芸員になるためには大学院を修了しないと難しいという風潮があるように思いますが、それはなぜですか。

やはり専門性が求められているからだと思います。しかし考古学に限ってかもしれませんが、学部卒の方も少なくはないと思います。

就職の際、どのような試験がありましたか。

専門に特化した試験と一般的な公務員の教養試験がありました。場所によっては専門試験のみの場合もあります。

学生の頃に、学芸員になるために苦労したことは何ですか。その苦労は現在いかされていますか。

考古学研究室で行ってきた発掘調査・整理作業や修論研究です。まだ採用1年目ですが、研究室での学びは何一つ無駄にはなっていないように思います。これは専攻にかかわらず同様ではないかと思っています。

学芸員になるためにはどのような力が重要視されていると思いますか。

専門性だと思います。

学芸員の仕事

「教育委員会」の「文化振興課・文化財係」の「学芸員」とは具体的にどのようなお仕事ですか。

私は考古学の学芸員なので、考古資料の整理や開発に先立つ発掘調査などを行っています。一般的な公務員と同様の事務仕事も行っていきます。

教育委員会の学芸員と博物館の学芸員とで仕事の違いはありますか。

同じ考古学の学芸員でも、教育委員会にいと埋蔵文化財の保護業務が多く、展示や教育普及などは少なくなり、博物館にいとその逆になると思います。

具体的にどのような文化財を扱っていますか。

主に考古資料を扱っています。

教育委員会にお勤めですが、教員免許もお持ちですか。

持っていません。

市の教育委員会に勤めていらっしゃるということですが、自分の専門以外の分野の資料を扱う場合と、自分の専門分野の資料を扱う場合とではどちらが多いですか？また、教育委員会に勤め始めてから新たな分野の勉強を始められたりしましたか？

広義には専門分野の資料を扱うことが多いですが、学生時代には勉強していなかった中世の遺物等も扱うことが多くあります。また、今治市には村上水軍博物館があり、今後異動する可能性がある上、日本遺産「村上海賊」のPRに力を入れているので中世の遺物だけでなく、文献史についても学んでいく必要があると思っています。

教育と文化財はどのようにかわっていくべきだと思いますか。

学校教育と博物館等が連携することで、教育コンテンツとして積極的に活用していくべきだと思います。文化財という実物・本物からでしか得られない体験や発見を通して、子どもたちが地域の歴史について興味をもち、地域の文化財や歴史を大切にしてくれるような雰囲気をつくりたいと思います。

発掘がない場合、どのようなお仕事をしていますか。

主に未報告の考古資料の整理や事務仕事をしています。また、文化振興関連のイベントの手伝いなどもあります。

今現在、人前に出ることと裏方のお仕事と、どちらが多いですか。

裏方が多いです。

「学芸員は雑芸員」と聞いたことがあります、実際に広い範囲のお仕事ですか。

勤務する場所によるとは思いますが、公務員ですので、事務仕事・文化イベントの手伝いなどもしています。災害時には事務職の人と同様に災害対策に従事するようです。

学芸員になって毎日使う知識や能力とは何ですか。

専門知識です。

在学中に興味関心のあった内容に関するお仕事ですか。卒論・修論と関連する内容のお仕事ですか。大学で学んだことがどのように現在の職にいかされていますか。専門領域と異なる業務をされている方もいらっしゃるのでしょうか。

今治市は修士論文でも扱った地域なので、その延長として自分の興味がある資料も今後扱っていきたくと思っています。大学で学んだ専門技能（発掘技能・遺物の実測技能）を活かしています。村上水軍博物館で勤務されている学芸員の方で、元々は弥生時代を専門としていましたが、現在は中世の村上海賊研究を積極的におこなわれている方もいます。

学芸員課程で得た知識等は実際の仕事に役立ちますか。

博物館勤務というわけではないので、学芸員課程で学んだことはまだ活かされていません。

新学芸員課程で学ばれたそうですが、仕事をされていますか。

旧課程の方との違いなどを感じたことはありますか。

採用されて間もないので、今のところはありません。今後、違いが見えてくるかもしれません。

仕事をしていて何か研究上の発見はありましたか。

残念ながらまだありません。今後がんばっていきたいです。

地域の人々に地域資源の重要性を理解していただくためには、どのような活動が必要ですか。

最新の発掘調査や研究の成果を積極的に展示等で地域の人々に還元することが必要だと思います。

博物館が観光資源化しつつあることについてどのように考えますか。またその中で果たすべき学芸員の役割についてどのように考えますか。

博物館にも観光資源化向きのものとそうでないものがあると思います。観光資源向きの博物館をそのように扱うことに反対はありませんが、観光資源化に適さない地域密着型の博物館や資料館がないがしろにされてはならないと思います。学芸員は自館のミッションや資料を勘案して観光資源化に対してエンジンにもブレーキにもなるべきだと思います。

これらもずっと学芸員として勤務したいと思いませんか。

思います。

地方公務員採用後、学芸員ではなく博物館の事務を担当したい場合に、学芸員資格を有することは有利になるのでしょうか？

今治市の博物館・美術館は村上水軍博物館を除いて、指定管理の館が多いので、博物館等への直接の勤務はほとんどありません。しかし、一般事務職の人でも学生時代に芸術学を専攻して、学芸員資格を持つ人が美術館を担当していたり、考古学を専攻して学芸員資格を持つ人が文化財係にいたりするので、断言はできませんが専攻と資格によって博物館・美術館や文化財に関われる機会が増えるのかもしれない。

学生みなさんへ 私は採用1年目でまだまだ分からないことが多く、皆さんと同じで学芸員の仕事を学んでいる途上にあります。いっしょに頑張っていきたいと思います！